



手のひら画像コンピュータのポテンシャルを探る

# ラズパイで天体観測

第2回 画像クッキリ! 500枚を平均してノイズを減らす

[ご購入はこちら](#)

望月 正継



写真1 今回の撮影ターゲット…木星  
神奈川県にある筆者宅から撮影した南の空

## ● 撮影ターゲット

2017年1月現在、おとめ座の1等星のスピカの近くにいる木星が観測シーズンに入りました(写真1)。3月下旬に一晩中見えるようになります。6月までがシーズンです。

木星には大赤斑という目のような模様があります。自転周期が約10時間ですので、観測時間が数時間の現時点では1日おきに大赤斑を観測できます。

## ● 使用機材

写真2に使用した機材を示します。

- 実験コンピュータ：ラズベリー・パイ3
- カメラ：Raspberry Pi normal Camera V2.1
- 望遠鏡：タカハシMewlon-250CRS ( $D = 250\text{mm}$ ,  $f = 2500\text{mm}$ ,  $F = 10$ )
- 赤道儀：ビクセン AXD 赤道儀

## ● 撮影

なるべく枚数を多く、露出時間は短くなる方向で設定します。筆者の望遠鏡では、512×512ピクセル、Gainを230、露出時間は1000が適正と思われる。今



写真2 望遠鏡と800万画素ラズベリー・パイ・カメラ2と画像処理を組み合わせると木星の撮影に挑戦してみる